

### 第58話 近世前期の柏倉家

## 中山町 歴史散策

近世以前、戦国期のこの地方は、寒河江大江氏の支配下で、長崎城にいる重臣中山氏に治められていました。中山氏の領地は約8000石と言われ、岡村もその集落の中の一つでしたが、近世になって急速に開発が進められたところでした。

柏倉家の先祖は、この地の中世以来の土豪ではなく、17世紀の半ばにこの地に移住した安達九左衛門信元であるとされ、これを九左衛門家の初祖としています。

移住の年代は、「皆竜寺史(門伝)」によれば承応2年(1653)となっており、初代九左衛門信元は岡村移住後に姓を安達から柏倉に変えたと伝えられています。戦国期から近世初期にわたって代々住みついた村山郡柏倉村との因縁によるものとみられています。

白鷹山丘陵北辺の山寄りの村々には金沢・柳沢・土橋・岡・小塩・平塩などの集落が並びますが、近世初頭の村高をみると約300石から600石余といずれも小村でありました。

正保4年(1647)の岡村の村高は376石1斗1升1合で、うち田が308石余、畑が67石余となっています。これは、柏倉家が岡村に移住する直前の状況で、幕府領の一斉検地による寛文11年(1671)「岡村検地帳」によると柏倉九左衛門名請高は1町3反余りとなっています。この名請高は、村内農民としては標準的なものでした。

説明…一石とは、下位単位で10斗にあたり、同じく100升、1000合に相当します。米1合がおおむね大人の1食分とされているので、1石は社会構成員1人が1年間に消費する量にほぼ等しいと言われています。

※参考  
中山町史 中巻 第7章  
第1節 近世豪農の形成

## 冬の夜を彩る 色とりどりのイルミネーション

日が落ちて暗くなると、ひまわり温泉ゆ・ら正面玄関から町情報・物産館〇つとまで、LED電球で電飾されたイルミネーションが点灯されます。

また、ゆ・ら玄関前のアクリルボードには「かぶくん」「イチヨウ」「ひまわり」「ブルムちゃん」などの町のシンボルが蛍光塗料で描かれ、それらが明るく浮かび上がります。訪れた人は、幻想的な色とりどりの光の芸術を楽しんでいました。点灯は2月末まで行われます。



LED電球約1万個を使用した見事なイルミネーション

## 年末恒例 暮の市

12月28日、役場前の上町通りで、町商工会が主催する年末恒例の暮の市が開催されました。

山菜汁や鉢植え、正月用品や生花、焼きそばなど多数のお店が軒を連ね、訪れた人は、それぞれ正月に備え買い物を楽しんでいました。



## 人権に関する書道展

12月2日から8日まで、ヤマザワ中山店で「人権に関する書道展」が開催され、長崎小学校と豊田小学校の児童の人権擁護に対する思いが込められた書道作品が展示されました。

大人顔負けの力強い作品に、思わず足を止めて見入っている買い物客の姿が多く見られました。



## 癒しのオブジェ展示中

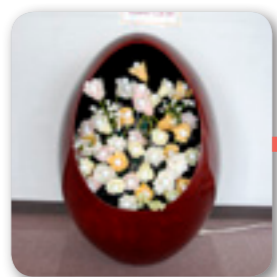
ひまわり温泉ゆ・らで、10月18日から東北芸術工科大学の学生の作品が展示されています。

ゆ・らでは「作品里親制度(※)」により学生に作品展示の場を提供しており、今年で3年目になります。

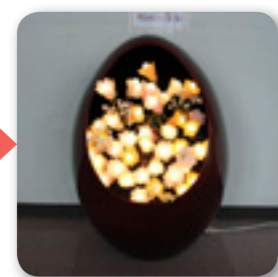
今回はオブジェ2作品が正面玄関と南側玄関にそれぞれ設置されました。作品の中にはライトが備え付けられており、夜になるとあかりが灯って幻想的な作品に。入浴客は足を止めて作品を楽しんでいました。



作品名：異風ドーロー  
不思議な生き物の穏やかな表情が見る人を癒してくれます



作品名：生命  
夜になるとライトが点灯され、幻想的な雰囲気



## 小僧道に伝わる民話写真展

12月5日から26日まで、写真展「小僧道に伝わる民話」先祖が伝えた数々の民話(伝説)は私達に何を語りうとしたのか」がひまわり温泉ゆ・らで開催されました。

この写真展は中山町民俗同好会が企画。昔、若い小僧たちが寒河江市平塩の熊野神社へ参拝する際に通った中山町の古道を「小僧道」といったそうです。写真展では「小僧道」の景色を撮影した写真を展示。また、地域に伝わる民話がとんと昔話で披露され、入浴客は興味深そうに見入っていました。



## 栄養バランスを考えよう

### 豊田小でバイキング給食

12月22日、豊田小学校で6年生を対象にバイキング給食が実施されました。

初めに、栄養士さんが食べ物の栄養についての話やバランスの良い料理の選び方のポイントを指導。児童たちは、五目ちらしずし、パン、とりのから揚げ、えびフライ、さばの味噌煮、サラダ、フルーツなど、たくさんの料理の中から、それぞれ好きなものを選び、お皿に盛り付けていました。

自分で栄養バランスや盛り付けを工夫するといういつもと違った給食に、児童たちは大満足の様子でした。



## ひと足早く おせち料理をお届け



12月16日、町社会福祉協議会が主催する「友愛訪問」が行われ、食生活改善推進員の皆さんが作ったおせち料理が、希望した70歳以上のひとり暮らしの高齢者に届けられました。

色鮮やかで美しく、心のこもったお料理に、受け取った方は「ひと足早く新年がきたようだ」と大変喜んでいました。



献立：茸ごはん、輪切りなます、松風焼き、鮭の柚子味噌焼き、錦卵、銀杏から揚げなど